



—湾岸アラビア半島地域ニュース—

イラク：旧バース党関係者との対話の取り組み

(3月19日付現地紙報道)

1. 政府代表団のアラブ諸国への派遣

イラク政府は、マーリキー首相が提唱した憲法の規定に基づく反イラク政府勢力との対話を実現するため、アラブ各国に居住する当該勢力との会談を目的とした政府代表団を派遣する。この件に関して、サバーハ紙の信頼できる筋は以下の通り述べた。

(1) 同政府代表団は、この件に関する先般のマーリキー首相の発言を受けて、イラク政府との対話と融和の意志及び民主主義に基づく新生イラクへの帰国の意志を表明している当該勢力との間で協議を行う事になる。

(2) しかしながら同代表団がテロ活動に手を染めた勢力やバース党関係者をはじめとする全ての反政府勢力と対話を行うことはない。

2. 国民議会の反応

(1) ウィサーブ・シャーキル国民議会国民融和委員長は次の通り述べた。

a. 国民議会国民融和委員会は、国民融和に関する法案成立のための障害を除去するため（政府と）協力していくと共に、最近の国民融和の強化に向けた政府の取り組みを支援するための新しい法案を作成する予定である。

b. 現在、臨時委員会として存在している同委員会を「対話と融和のための委員会」との名称で常設委員会にするための手続きが行われている。

(2) 同日、ハサン・アッサニーディ議員（ダアワ党）は、「イラク政府はこの件に関して指名手配犯、イラク国民に対して罪を犯したバース党員、アル・カーイダ等の暴力を支持する勢力に参加している者達と対話する意図は有していない」と述べた。

3. ISCI の反応

18日、アンマール・ハキーム ISCI 副議長は、現地訪問中のムーサ・アラブ連盟事務総長との会談において、「バース党員については、サッダーム支持者で罪を犯した者達と、生活のためにバース党に入党せざるを得なかった者達とを区別して扱う必要がある。」「我々は後者の者達をサッダームの犠牲者と考えているところ、彼らにはイラクへの帰国があり、彼らと対話する事に関して問題はない」と述べた。

4. 国民融和実施フォローアップ委員会

シェイク・アブード・アル・イーサーウィー国民融和実施フォローアップ委員は以下の通り述べた。

- (1) これまでのところ、アンマンとダマスカスに居住する旧イラク軍将校のうち 435 名がイラクへの帰国及びイラク国軍への復帰を希望している。
- (2) 同委員会は、イラク国外に居住する部族関係者との協議も実施しており、彼らのイラク帰国を保証するための必要な措置を講じている。彼らのうち 60 名が最近バグダッドで開催された「部族ための国家委員会」設立のための特別拡大大会合に出席したところである。

【補足情報】

- 2009-03-09 マーリキー首相は部族（オベイド）との会合の席で、国外で現政権を批判している者たちに対して、イラクに帰国し国内で野党として活動するよう呼びかけると共に、過去についての責任追及はしないと約束した。またアブドルマフディー副大統領とアクラム・ハキーム国民対話担当国務相は同日バグダードでバアス党の上級幹部（ムハンマド・ラッシャード・シェイフ・ラーディ）と会談し、マーリキー首相によるバアス党メンバーとの対話開始について意見を交換した。
- 2009-03-14 イラクのアクラム・ハキーム国民対話担当国務相は DPA 通信に対して、旧バアス党員に対して、イラク政府が提案している国民和解イニシアティブに応じるよう改めて呼びかけた。
- 2009-03-18 ハヤート紙は、バアス党を政治活動に復帰させることに関して各政治グループの見解を報じた。マーリキー首相のダアワ党は、バアス党の「イラク地域指導部」に対して次期国会選挙参加の条件として党名変更を求めた。サドル派は、バアス等との和解に慎重になるようイラク政府に呼びかけた。憲法再検討委員会のサーミ・アスカリー（マーリキー首相に近い）は同紙に対して、バアス党の政治復帰を認める憲法改正のための作業を行なうつもりはないと述べた。
- 2009-03-19 イラク現地紙は、マーリキー首相の提唱した旧バアス党党員との接触のたえ、アラブ諸国に居住する旧党員との対話を行うための政府代表団を派遣すると報道した。